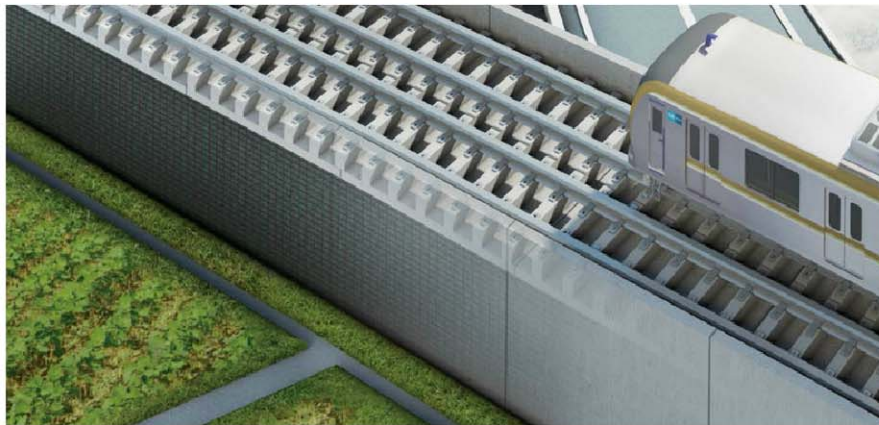


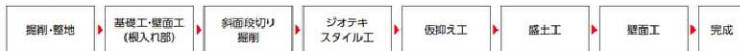
RRR工法

鉄道の安全運行を
ジオテキスタイルで守ります



概要 RRR工法は、公益財団法人鉄道総合技術研究所によって開発された補強土工法です。ジオテキスタイルの補強土壁を先行して構築し、盛土体および基礎地盤が安定した後に現場打ちのコンクリート壁面を打設します。安全性に優れたコンクリート一体化壁が構築可能です。整備新幹線・在来線および民間鉄道等の実績が多数あります。

標準施工手順



FRグリッド [▶ページ 15](#)

RRR工法関係部材



超軟弱地盤上での施工。敷設材工法を併用
首都圏北東部を縦断する都市高速鉄道の車両基地の外周壁面に使用しています。超軟弱地盤のため、施工機械のトラフカビリティを土布シートで確保した上でRRR工法を行いました。
茨城県 私鉄車両基地・南茨城 ・壁面の高さ(m):2.0~5.0 ・壁面の勾配:垂直 ・総構築面積(m²):3500



用地制約を受ける都市部において信頼性の高い鉄道盛土を構築
九州新幹線の駅および線路の直下の補強盛土です。新幹線の走行性を維持し長期的な安定性を確保します。
鹿児島県 九州新幹線ステーション周辺盛土
・壁面の高さ(m):5.0 ・壁面の勾配:垂直 ・総構築面積(m²):6000



被災したバイパスの本復旧工事
台風の影響により、道路崩落となったバイパスの本復旧としてRRR工法が採用されました。越波及び波力に対する護岸の安定性や、維持管理・地震の影響等を考慮しています。

神奈川県 西郷バイパス災害復旧工事
・壁補強土壁高さ(m):9.0 ・壁面の勾配:2分 ・総構築面積(m²):7500